

# 大津企業景況調査報告書

(第80回)

平成30年1月～3月期 実績

平成30年4月～6月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成30年1月～3月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 166 社に F A X 方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 6 社	1 3 社	8 1 . 3 %
卸 売 業	1 4 社	1 3 社	9 2 . 9 %
小 売 業	4 5 社	3 5 社	7 7 . 8 %
サービス業	6 2 社	5 2 社	8 3 . 9 %
建 設 業	2 9 社	2 1 社	7 2 . 4 %
合 計	1 6 6 社	1 3 4 社	8 0 . 7 %

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成 30 年 1 月～3 月とし、調査時点は平成 30 年 3 月 1 日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

## 景況感は4年ぶりのプラスも先行きは慎重

平成30年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、全体の業況判断DI（前年同期比）が消費増税前の平成26年1～3月以来4年ぶりにプラスに回復し+10と2ケタのプラスになった。業種別では、サービス業がインバウンド消費の増加等により好調が続き、建設業が公共工事の増加等から大幅に改善し、小売業が景気拡大等から4年ぶりにプラスに回復したが、製造業、卸売業はマイナスであった。製造業、建設業はじめ全業種で人手不足感が強く、企業の人件費負担が増加している。

先行きの業況判断DIは、+5と引き続きプラスを見込むもプラス幅が縮小する。世界に広がりつつある保護主義的な動きから円高と株安が進み、企業は先行きをやや慎重にみている。業種別では、今四半期と同じくサービス業、建設業、小売業はプラスだがプラス幅が縮小する。製造業、卸売業はマイナスを見込んでいる。全業種で人手不足が続くとみている。

#### □ 業況判断DI（前年同期比）は、4年ぶりにプラスに。サービス業、建設業が大幅プラス

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は4年ぶりにプラスに回復し+10と2ケタプラスになった。業種別では、サービス業は好調が続き建設業は大幅に改善し小売業は4年ぶりにプラスになったが、製造業、卸売業はマイナスであった。

#### □ 売上DI（前年同期比）は、2年半ぶりに前年比増加。サービス業が前年比大幅増

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、+7で平成27年7～9月以来2年半ぶりに前年比増加となった。サービス業がインバウンド消費の好調等から大幅増加し、小売業も前年比増となったが製造業、卸売業は前年比減少した。

#### □ 採算DI（前年同期比）は、マイナス幅縮小。建設業で好転、製造業、小売業で悪化

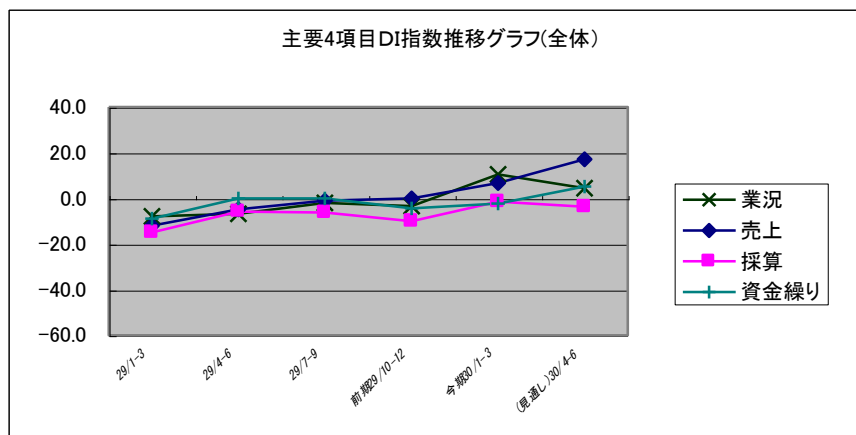
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、今四半期▲2とマイナス幅が縮小した。業種別では建設業が好転したが、製造業、小売業は厳しく原材料(仕入)価格の上昇を販売価格に転嫁できていないことによるとみられる。

#### □ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、マイナス幅縮小

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、今四半期▲2とマイナス幅が縮小した。長期資金、短期資金の借入易さも前四半期とほぼ変わらずであった。

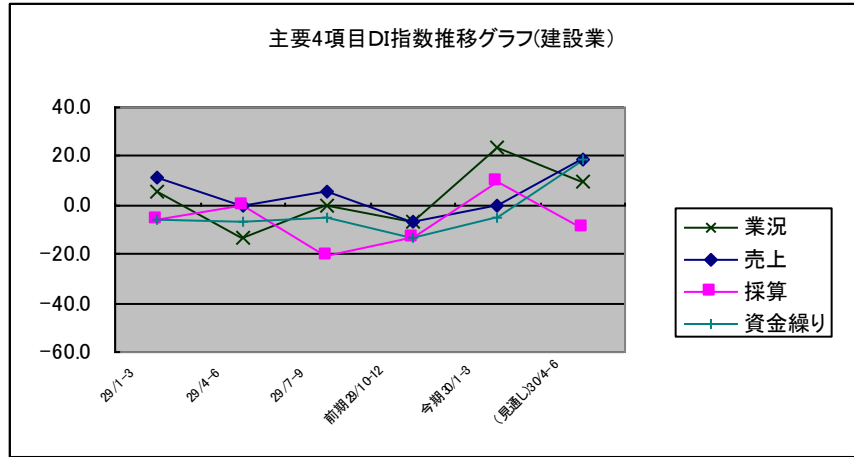
#### □ 従業員DI（前年同期比）は、強い人員不足感が続く。製造業、建設業で深刻

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、今期+30と強い人員不足感が続く。業種別にみると、製造業が+46、建設業が+33と深刻である。製造業では省力機械の導入による生産性の向上や労働時間短縮による働き方改革等が、建設業では雇用促進、待遇改善、省工数化が課題になってくる。



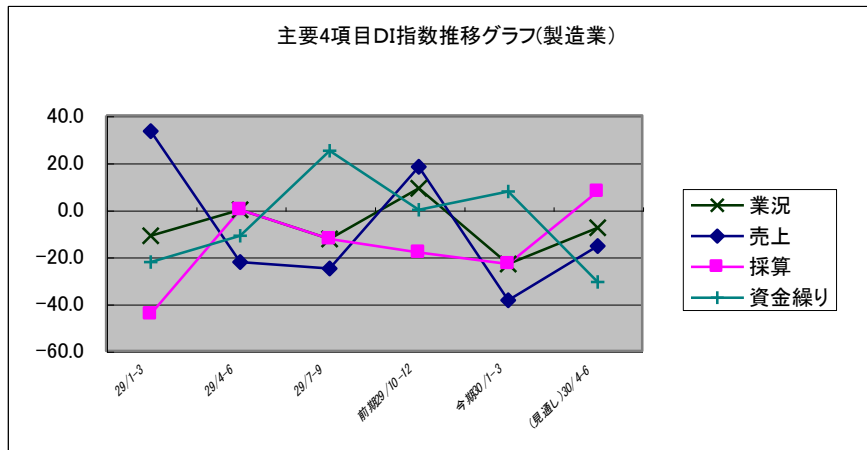
## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲7 から今四半期は+24 と公共工事の増加等から大幅に改善した。個別指標をみると「売上」が前四半期の▲7 から今四半期±0 と改善した。「採算」が▲13 から+10 へ大幅改善し「採算水準」も+29 と高水準である。「従業員」は強い人手不足感が続いている。



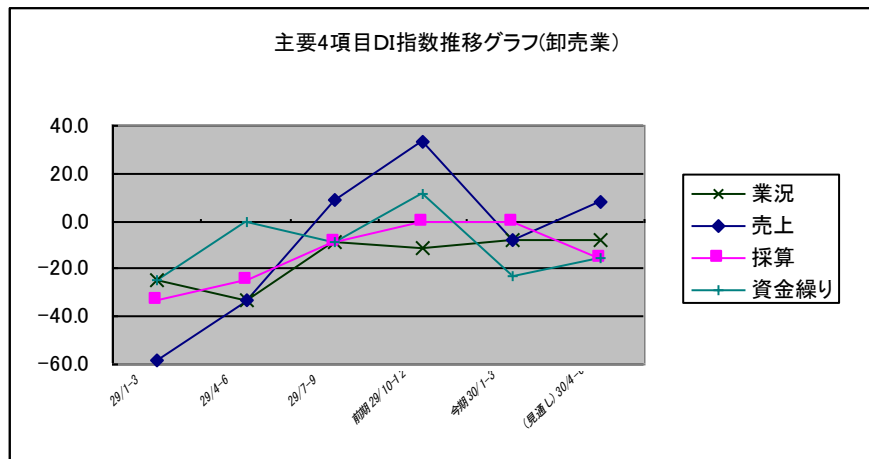
## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期+9 から今四半期は▲23 に悪化した。個別指標をみると「売上」は需要拡大により前四半期の+18 から今四半期▲39 と大幅減少し、「採算」も原材料の高騰により前四半期の▲18 から今四半期▲23 と悪化した。「従業員」は前四半期の+18 から今四半期は+46 と深刻な不足状況である。



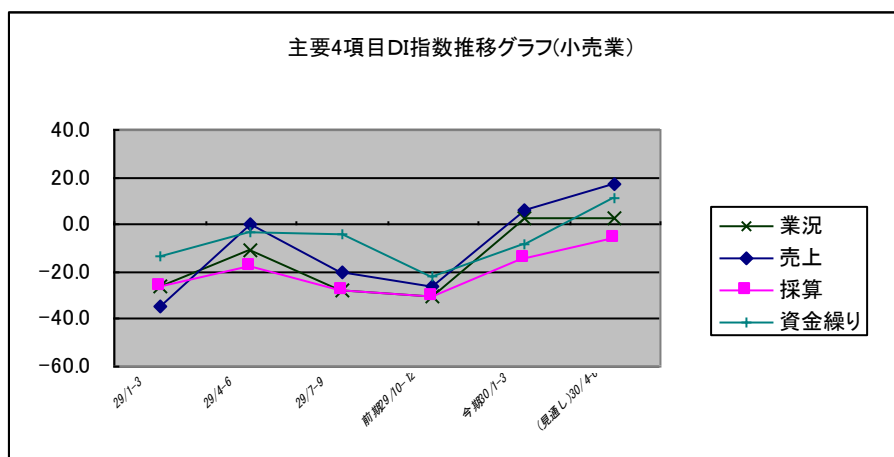
## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲11 から今四半期は▲8 とやや改善したもののマイナスである。個別指標をみると「売上」が今四半期は▲8 と減少し、「採算」は前年並みである。「従業員」は今四半期も+31 と強い人員不足感が続いている。



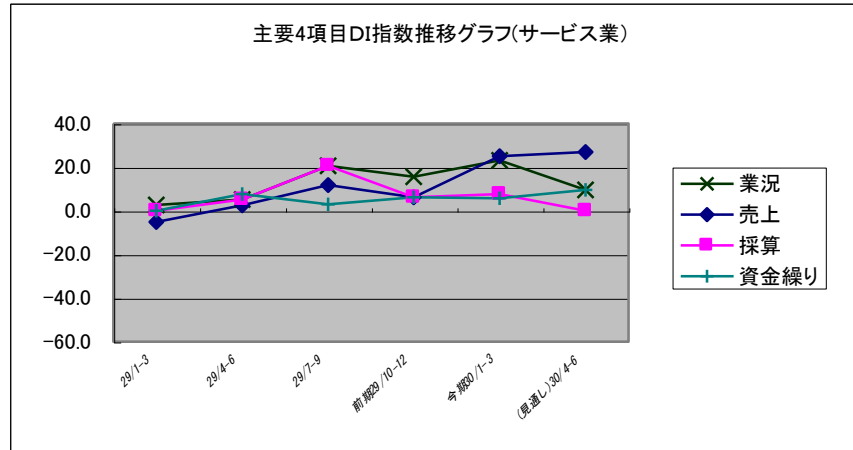
## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲30 から今四半期は+3 と 4 年ぶりにプラスになった。景気拡大の波が地方都市にも波及してきたものとみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲26 から今四半期は+6 と実に 4 年半ぶりに前年比プラスになった。「採算」は▲30 から▲14 へ改善した。「従業員」は人員不足感が続いている。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期に+16 から今四半期も+23 と好調が続いている。個別指標をみると「売上」は前四半期+6 から今四半期+25 と大幅に増加し、「採算」も+8 と良化している。「従業員」は人員不足が続いている。業況の良化は、景気回復によるレジャー等の増加やインバウンド消費の増加等によるものとみられる。



来四半期（3 ヶ月後）の「業況」DI は、今四半期の+10 から+5 へとプラスながらプラス幅が縮小するとみている。個別指標をみると、「売上」は+7 から+17 へ大幅に増加するが、「採算」が▲2 から▲4 へ悪化すると見込んでいる。「従業員」は+30 から+25 と人員不足は続くとみている。

業種別「業況」DI では、好調なサービス業と建設業が共に+20 台から+10 にプラス幅を縮小し、回復基調の小売業は+3 が続くとみている。一方、製造業と卸売業は共に▲8 とマイナスを見込んでいる。

景気は緩やかな拡大基調にあるといわれているが、世界に広がりつつある保護主義的な動きから円高、資源高と株安が進み、企業は先行きをやや慎重にみている。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は 26%で、3 ヶ月前より 3 ポイント増加した。業種別にみると、製造業と卸売業が最も高く 31%、小売業が 26%、サービス業が 25%そして建設業は 24%である。投資する企業の投資内容の割合は、「更新投資」が 50%で最も多く、「合理化省力化」が 21%である。うち製造業では 50%が合理化省力化投資で人手不足を補完する方針とみられる。「生産力増強」は 18%である。投資方針は、「計画通り」が 51%で、「景気により見直す」が 26%となっている。投資内容からして投資方針は妥当な判断といえる。

「生産力増強」投資が 18%と少ないことから企業も先行きに慎重な姿勢が見て取れる。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

## (今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 部品等が入手に時間がかかりすぎる (前年と比べ) (製造業)
- ・ 中小零細企業に対する恩恵が感じられない (製造業)
- ・ 地域に根ざして店舗による販売を長年営んできましたが、近年インターネット利用による購買のニーズの高まりをひしひしと感じています。インターネット情報マスの大きさや未知数的なニーズへの対応にある意味恐怖を憶え、対処していない状況です。しかし、近未来的に何らかの対応が必要になると思っています。(製造業)
- ・ 上場一部企業の好決算が循環してくれたらと期待するが、ニーズのミスマッチがあれば以前の話。今やれることをやりきって聞くのが、今の時代のニーズとマッチしていく。意見じゃなくボヤキ失礼しました。(小売業)
- ・ 同業者は厳しく言う声を聞くが、当社は仕事がありすぎてさばくのが厳しい。(小売業)
- ・ お客様の数を上げるために何をするか、この一年の課題となります。地域での活動、地域外での活動。(小売業)
- ・ 今期の冬季寒さが堪えて、需要の停滞はまぬがれなく不況感の中、売出や販促にて売上を維持しかし、顧客の高齢化にどう向き合うか苦慮していますが今できる事、今できる仕事を確実に推進すること。春になれば現況が打開できるように方策を打出し向かうこととします。(小売業)
- ・ 仕事は新規需要に取り組んでいるが、さらに深掘りするには政府による規制緩和を行うべきである。特に企業による農業への参入はさらに緩和すべきである。(サービス業)
- ・ 電子申請の普及が圧迫する。(サービス業)
- ・ 人手不足が慢性化しており、特に飲食業が目立つ。(サービス業)
- ・ 建設業に置いて前年同期よりも忙しくされているように見受けるが、思うように利益が確保できていない。(同サービス業)
- ・ 地域の活性化に取り組み始めた団体を多く見受けるようになった。(同サービス業)
- ・ 2019年10月に消費税が10%に上がりますが、景気が悪化しますので反対です。  
(サービス業)
- ・ 安倍首相のやっていることでとんでもない事がおこる。(サービス業)
- ・ 去年の台風被害の積み残しが春まで仕事になっています。リフォーム補助金の復活を願います。(建設業)
- ・ 受注工事は前期より今期を上回っていますが、安定性が無いので不安がついてきます。  
(建設業)

以 上

## DI 指数一覧表

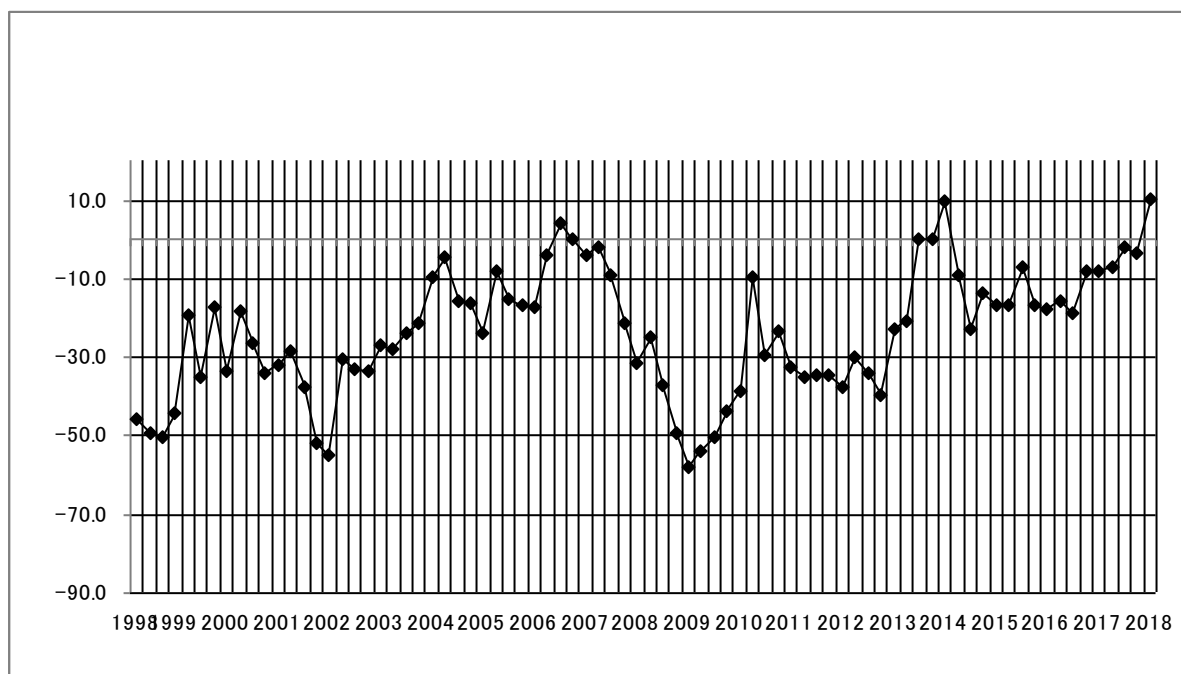
	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	10.4	4.5	6.7	17.2	▲1.5	▲3.7
建 設 業	23.8	9.5	0.0	19.0	9.5	▲9.5
製 造 業	▲23.1	▲7.7	▲38.5	▲15.4	▲23.1	7.7
卸 売 業	▲7.7	▲7.7	▲7.7	7.7	0.0	▲15.4
小 売 業	2.9	2.9	5.7	17.1	▲14.3	▲5.7
サービス業	23.1	9.6	25.0	26.9	7.7	0.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	11.9	17.2	▲7.5	▲4.5	29.9	25.4
建 設 業	28.6	9.5	0.0	▲9.5	33.3	38.1
製 造 業	15.4	23.1	0.0	▲7.7	46.2	23.1
卸 売 業	0.0	23.1	▲15.4	▲7.7	30.8	30.8
小 売 業	▲17.1	2.9	▲11.4	▲2.9	25.7	22.9
サービス業	26.9	26.9	▲7.7	▲1.9	26.9	21.2
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	



	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲2.2	5.2	2.2	1.5	3.0	3.0
建設業	▲4.8	19.0	0.0	▲4.8	9.5	4.8
製造業	7.7	▲30.8	7.7	▲7.7	23.1	0.0
卸売業	▲23.1	▲15.4	▲15.4	▲7.7	0.0	0.0
小売業	▲8.6	11.4	5.7	8.6	2.9	5.7
サービス業	5.8	9.6	3.8	3.8	▲3.8	1.9
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>